

地区広報

はづ

No.27

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会

平成6年3月25日

めったあがった
熱気球
みえたみつけた
わたしの家



羽津地区人口 総数14,853人 男7,615人 女7,238人 世帯数5,132世帯 (H.6.2末現在)

地域社会づくり事業

ウォッチング

はづ'93

みつけよう!
はづのすばらしさ

社会教育推進員

田中逸夫



孫といっしょに

進委員会で検討、実行委員会を組織して、準備に入った。まず、「熱気球係留飛行」は、何分初めての経験のため、熱気球探しに苦労したが、幸い、市内のガス会社熱気球クラブのご厚意で多大なご協力ご得られ、実施される運びとなった。

この事業は、天候に大きく左右されるため、風と雨を心配したが、当日は絶好の日和に恵まれ、早朝より多数の参加者が集まり、地上約三〇米から展望を楽しむと同時に、美しい羽津のまちを見て、より郷土愛がめばえたことと思う。

次に、「ウォークラリー」は、自分の足で実際に歩き、羽津の文化・歴史・産業・人々のくらしを知ろうとするものである。

日頃、何気なく通りすぎる街角、忘れられた記念碑、道路事情など…。私たちのまちに潜在するいろいろな問題を考えながら歩かれたことと思う。

羽津小学校と羽津北小学校の二会場に別れて行われたこの事業には、延べ五百名程の人々が参加しましたが、この事業で体験し勉強したことが、今後、羽津の地域社会づくりに大きな成果として表れてくるものと確信します。

終わりに、今回の事業実施にあたり、最後までご協力いただいた各種団体役員の皆様には、深く感謝する次第です。

地区の皆様には、今後とも「明るく住みよい街づくり」のために御協力下さいますようお願いいたします。

志氏の大地に、熱気球が上空高く舞い上がっている。地上では友達同士、ファミリィ・グループなどいろいろな仲間が、羽津の文化・歴史・くらしを巡るラリーを楽しんでいる。

平成五年十二月五日、羽津地区地域社会づくり事業の一環として、ウォッチングはづ'93が実施された。

一昨年のゴミ問題を考える「まもろう、のこせうクリーンはづ」。昨年の「ふるさと壁画」「志氏の大地に生きる」の製作。そして、今年度の「ウォッチングはづ'93」。

これらの事業は、自分たちの手で住みよいまちづくりをすすめることを目的に実施されたものである。

今年度は、熱気球飛行体験を通じ、空から羽津のまちをながめ、また自分の足で歩いて、歴史や文化、人々の生活を見つめ、今後のまちづくりに生かそうとのねらいから実施されたものである。

「ウォッチングはづ'93」は、年度初めから計画され、地域社会づくり推



どんな問題かな?



予想以上の大きさにびっくり

さわやかな一日

大宮町 高田正一(ハミ)

過去、幾度も「歩こう会」で、十五キロ歩いたことがあるので、歩き始めは、ゆっくり歩いているみんなと、歩調を合わせるのが苦痛で、少し疲れましたが、いい体験をさせてもらいました。

澄み渡る青空の下、家族そろって歩き、大勢の方々との出会いと

友好を深めつつ、時には家族全員でクイズにも挑戦し、楽しみながらなごやかに全コースを歩き終わり、ホッとしました。私は、久しぶりにさわやかな気分になりました。この体験はいい思い出としていつまでも心にのこるでしょう。

最後に一言、羽津会館での、孫と一緒に飲んだ「豚汁」の味は最高でした。

要望、本年も親子三代で参加をしたいと思っております。



空からウォッチング
はづのまち
歩いてみようはづのまち
ウォークラリーはづ'93

はづウォークラリーに参加して

八田二丁目 平田健二

昔を振り返る気持ちと、羽津を知らない妻と二人で、地元を知る機会を与えられたと思ひ参加しました。

ウォークラリーで町内を歩き、問題の一つ一つに、羽津にもこんないろいろな言い伝えや歴史に残る旧跡があるのかと、うなずき再確認しました。

また、北小学校で熱気球に乗り、上空から地区を見て、大半を占めていたはずの田畑が今では殆ど住宅に変わっており、月日の流れを実感しました。羽津で生まれ育ったと言っても学生時代までで、三十年前のこと。久しぶりに地元に戻り、今ではすっかり浦島太郎になった気分です。

今後このような企画が設けられ、地域を知る機会が広がればと思います。

役員のみなさまごころうさまでした。



アツアツのおいしい豚汁

「おばさん豚汁おかわり」と元気な男の子の声。羽津会館では婦人会が、豚汁の接待をさせて頂きました。

十二月とは思えないような暖かい日曜日。参加された人たちは、手作りお弁当と豚汁でホッとした様子。ゴールまでもうあと一息。うしろ姿に「最後までがんばって」と声をかけたくなるようなそんな一日でした。

羽津婦人会



体も心もホッとひと息

こもれびコンサート

羽津中三年 下谷幸代



そのクリスマス会には、たくさんの人が来ていた。中には体に障害をもつ人もたくさんいた。私は「こもれび」のテーマソングがとて心に残っている。その曲は、生きる

ことをすばらしいと歌っていた。私達は、自分が何不自由なしに生きていることに、感謝したことがあるだろうか。その日来ていた人達は、障害をもついても生きることを大切に考え、夢に向かっていっしょけんめい生きている人ばかりだった。私は、とても貴重な体験ができたと思う。

12月の初めに羽津中学校に「こもれび」というグループ名の視覚障害をもつ2人の夫婦がやって来た。その2人は多賀輝宏さんと貴惠さんだった。そして、2人はみんなから「おじさん」、「由奈さん」と呼ばれていた。おじさんと由奈さんは視覚障害というとても大きなハンディを背負いながらも、コンサートをして私達にたくさんのお話を聞かせてくれた。どの曲も心のこもったやさしくて力強い曲だった。

その後、私は「こもれび」のクリスマス会に行くことになった。

縄作り

羽津青年団

毎年十一月末から十二月末までの一ヶ月間、火の気のない薄明かりの志氏神社の倉庫に集まって、神社の縄づくりをしています。六人一組で、鳥居や、手洗い場など、短い物で3m、長い物で8mくらいの縄を十五本作ります。数年前までは、大鳥居や本殿の縄も作っていましたが、団員の

数が減ったため大きな縄が作れなくなり、今ではビニール製の縄に代わってしまいました。年々、青年団員の数が減っているため、縄が作りづらくなりまうが、なんとか今の十五本を、減らさずに毎年作り続けたいと思います。

娘が成人式を迎え、二十数年前の自分と重ね合わせる。親の方が感傷的になり、しみじみ…。子を思う心は昔も今も同じ？、晴れ着姿の娘と共に、めったに撮らない家族写真をパチリ。さて、成人式はどんなだった？の質問に、娘は久しぶりに逢えた友人との会話を夢中で、話に夢中で式典は「はて、どんなだったろう」と気のない返答。早朝六時から髪切りとなれぬ着

祝 成人式



物に疲れた一日だったらしい。なにはともあれ、成人おめでとう。う。

話



題

二十歳になって

成人式の祝いに、両親から印鑑をプレゼントされた。「自分のことは責任を持って、行動せよ」という意味だと思う。選挙権は得たけれど、まだまだ親まかせの自分である。学びたいこと、遊びたいこと、山ほどある。親孝行など、なにもできないけれど、せめて迷惑だけはかけずにいたい、と思う。

ち

そのクリスマス会には、

毎年十一月末から十二月末までの

数が減ったため大きな縄が作れな

娘が成人式を迎え、二十数年前の

ま

うれしかった マラソン大会

羽津北小六年 前田真希

「ピー」笛がなった。みんな一斉に走り出した。ドタバタ、ドタバタ。「ああ、入賞したいな！」心の中でそうつぶやく。ハッハッハッ。少しずつえらくなってくる。でもペースは落とせない。落とすとぬかれる。このままだければ五位だ。がんばるぞ。



一人ぬかれた。どうしよう。でも負けたくない。最後までがんばらないと。一生懸命走った。でもぬかせなかった。ゴールについたら、六位だった。ちよっとくやしかったけど、心がスカッとして、ああ、いい気持ちと思っった。六年間入賞できて、とってもうれしかった。

がんばった駅伝



一月九日、中央緑地公園において「三酒地区学童野球伝大会」が、参加36チームで行われました。総距離12キロメートルのコースを9人で走り、羽津野球部は、Aチーム(5、6年生)が見事3位でゴールしました。また、Bチーム(5年生以下)は羽津北野球部が4位でゴールしました。みんな、よくがんばったと思います。

訪問インタビュー

津軽三味線にける夢

羽津町 松永義武さんを訪ねて



松永さんの津軽三味線にける夢は、津軽の地へと広がり、青森県の弘前公園で開かれる「チャンピオン大会」へとつながっていきました。家族で出かけた大会は、プロの演奏家ばかりでした。想像以上の迫力に圧倒されました。「世間は広い」、その経験は今なお心に残るすばらしい体験でした。最近「あさけプラザ」での演奏、そして鈴鹿民謡平和コンサートではギターとの競演と活躍しています。二人の子供さんも三味線に興味を持ち、奥様は太鼓を演奏される、音楽一家です。

松永さんは音楽が好きで、二十歳頃から、ラテン音楽に興味を持ち、フラメンコ、クラシックギターの演奏を趣味としてきました。そして、日本の民族音楽である、津軽三味線へどんな魅力を感じました。三味線より一回り大きい津軽三味線には楽譜はなく、一流の演奏家の弾く曲を聞きながら、音をひろって譜面を作っていきます。仕事を終えた後、けいこを積み重ねました。十数年を経て、

これからも津軽三味線を続けて、日本の民族音楽を大切にしていきたい。歌や打楽器と合わせて、コンサートを開いたり、更に東北民謡同好会に入り、津軽三味線を四日市に広めたい、と語る松永さんでした。

カルタ大会

羽津小二年 広瀬まり

はじめはドキドキしました。わたしの番のときはもっとドキドキしました。がんばったの一回目も、二回目も、三回目も、三回目のとき、四年生の子が「がんばってね、なだよ、ながあそこ」

にあるよ、後からおしてあげる」と言ってくれました。やっとなので、すこくうれしかったです。わたしは一年生の時は、

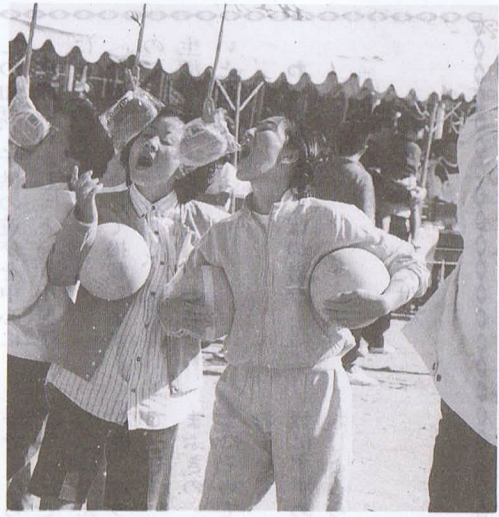


三味線は、日本の民族音楽である、津軽三味線へどんな魅力を感じました。三味線より一回り大きい津軽三味線には楽譜はなく、一流の演奏家の弾く曲を聞きながら、音をひろって譜面を作っていきます。仕事を終えた後、けいこを積み重ねました。十数年を経て、

これからも津軽三味線を続けて、日本の民族音楽を大切にしていきたい。歌や打楽器と合わせて、コンサートを開いたり、更に東北民謡同好会に入り、津軽三味線を四日市に広めたい、と語る松永さんでした。

秋晴れの 地区 運動会

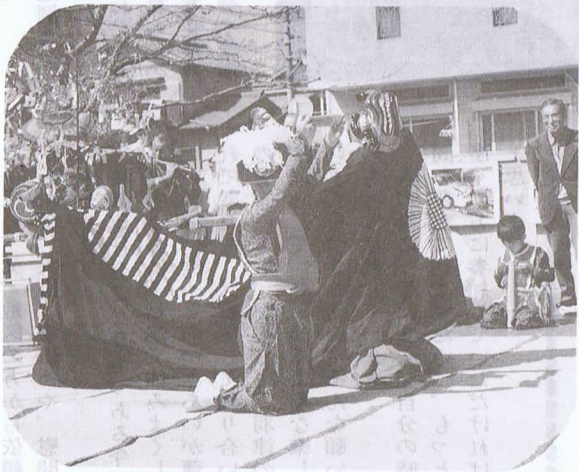
平成5年10月31日



第14回 羽津地区

文化祭

平成6年
3月5日・6日



地

区

行

事

ア

ル

バ

ム

羽津小学校 創立百二十周年を 迎えるにあたって

実行委員長 宮田 清志
羽津小学校は、本年五月十日に創立百二十周年を迎えます。

この記念すべき年を、少しでも意義深いものにしたいたいと思ひ、昨年八月より、平成元年度からのPTA会長、副会長、現役員が母体となつて実行委員会を組織し、記念式典行事部、記念事業部、記念誌作成部に分かれ、準備をすすめてきました。

主な事業の内容として、記念式典と祝賀会の実施(五月九日)、学年・学級菜園の造成、児童への記念品(航空写真の下敷)配布、記念植樹(かえて、記念誌の発行等を計画しております)。



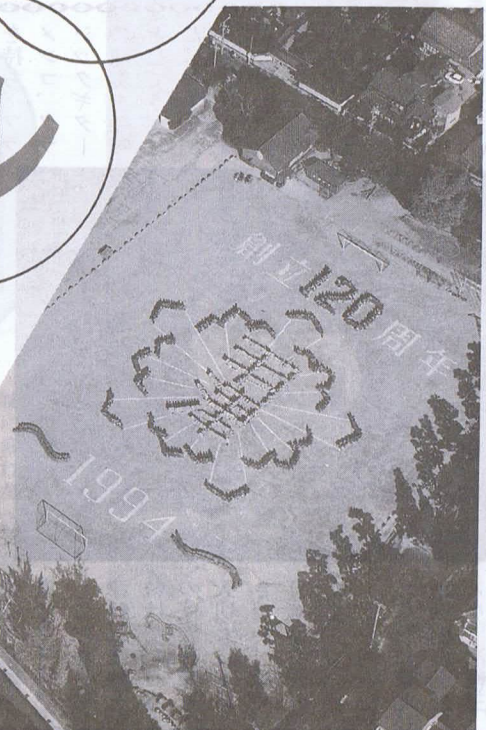
太極拳講座で 汗を流して

友人が太極拳を始めた。「運動不足、ストレス解消にバッチリよ」の言葉に興味を持った頃、お知らせの募集文「老若男女を問わず」の文面に心動かされて、参加しました。ゆっくりとした動作のなかで、手、足、目線に必ず動きがあり、講師の手を追えば、足がついていかず

スポーツ教室 体育振興会

去る二月二十七日、羽津中学校体育館において、スポーツ教室を開催しました。日曜日ということで、五十名程の参加者があり、バドミントン、ソフトバレーをして、汗を流し楽しみました。

体育振興会では地区の皆さんに、スポーツを楽しんでいただくと思ひ、毎週木曜日、羽津中学校体育館の一般開放日を利用し、夜七時からレクリエーション・スポーツの日としています。皆様、ご近所の方と誘い合わせて参加して下さい。体振のメンバーが指導します。



羽津のむかし

第1集 子どもの遊び



手まり歌である。歌を一緒にうたいながら、まりをつき、誰がいちばん長くついでいることができるかを競ったのである。

私たちの町羽津には、古い歴史があり、伝承されている文化があります。しかし、昨今の時代の変遷は目ざましいものがあり、時の流れに忘れ去られたことも多くあります。

昭和五十七年、羽津地区民俗同好会はそうした言い伝えによる、くらしの知恵、子供の遊びを中心に「羽津のむかし」という小冊子にまとめました。

今回から抜粋して掲載しますので、昔を想いおこし、又日常生活の参考ともしていただきたいと思います。

わらべ歌とことばの遊び

「いもにんじん
さんしよしいたけ」



いもいもいもいも にんじんにんじもにんじ
さんしよさんしよいもにんじさんしよ
しいたけしいたけいもにんじさんしよしいたけ
ごんぼごんぼいもにんじさんしよしいたけごんぼ
どんぐり……… 七面鳥………
初茸………
栗………

「どちでたちばな」
これは「せつせつせ」と同じやり方で手あそびをする時に歌ったものである。

一で たちばな 二で かきつばた 三で さがりふじ 四で ししぼたん 五つ いやまの千本桜 六つ 紫ききょうにそめて 七つ なりてん 八つ やまぶきの 九つ 小梅をちらしやにそめて 十で 殿様お馬にのーせて
竹にすずめは仙台さんのご紋おしとろろー おしとろろー

ボランテИА

「羽津ふれあいの会」

約六年前、ボランテИА「羽津ふれあいの会」は誕生しました。羽津地区で、安心して生活できる、助け合い、ふれあいのネットワークが作れたらいいな、自分もいざれ歳をとった時、気の合う仲間がいて、しかも気軽に声かけあって、励ましあうことができたならもつといい。そんな軽い気持ちで入りました。

会則もなく、「空いた時間に、できることをしましょう。」をモットーに、無理をせず、気楽にやってきました。

年齢も、三十代から六十代までバラエティにとんでいて、考え方もさまざま。

もさまざま、ボランテИАへの参加の意志も色々違います。活動内容は月一回の定例会に、何をするか決めます。

春は民生委員さんと、ねたきり老人の訪問、秋はひとり暮らしの老人との懇親会、年末に友愛年賀状作り。その間に、学習会や講演



事業部制の 中間報告

羽津地区社協は、自主的な地域づくりをめざして活動しています。さらに活性化を図るため事業部制を採用し、これからの各種行事はそれぞれの事業部が中心となって推進することにしました。

そこで、次の総会までに原案をつくり提案するための検討委員会が発足し、数回の会合を重ねてきました。

現在のところまとまっているのは、五つの事業部をつくり、その

事業部がどんな組織で、また、どんな事業を行うかを検討しました。五つの事業部として、

- (1) 青少年育成部会。(2) 福祉部会。(3) 健康推進部会。(4) 広報・文化部会。(5) 環境・交通安全部会を持つ

部会を持つことを決めていきます。

また、社協組織とは別に、最近特に注目されている人権問題についても活動していく必要があり、人権教育推進協議会も発足する方向で話し合っています。

会に参加したり、施設の見学や、お手伝い、又、地区の方から依頼があれば、入浴の手伝いや、慰問にも伺います。

高齢化社会になりつつある今、私達のまちは、私達で住みよくなりたい。隣、近所とのつきあいが薄れてきた今、又転居して知り合いの少ない方も、安心して、羽津の住民として、暮らせるような楽しいまちをつくりたい。そんな願いのもとに活動しています。

人の為に、ではなく、自分の時間を豊かに過ごすために、もっと多くの方に参加していただければと思います。

編集後記

春三月。広報はづ二十七号が皆様の手元に届く頃、桜のつぼみも大きくふくらんでいることでしょう。

一年の行事が、写真でいろいろ思い出されたでしょうか。スポーツや文化行事に、多くの方が参加されました。熱気球で空から見た羽津のまち。さらに住みよい町づくりを願って、皆様のご意見をお待ちします。

編集委員

- 山本 鉄男・田中 逸夫
- 内田 節子・井上キヨ子
- 森 博司・藤井 裕通
- 竹内佐知子・藤森 和代
- 福井 令子・一海加代子
- 羽津地区市民センター